

よこと館だより



Est. 1912

発行：至誠学舎立川 編集：法人事務局

理事長閑話 うめ草 ②6

作年度末に立川労働基準監督署から相談があるので来てほしいとの連絡がありました。伺うと署長自らの説明で、福祉施設の労災が多いので、この地域の代表的な法人として、労働災害削減のモデルの取り組みをしてほしいとの要請でした。背景は 28 年度全国で労災の発生率は 1.4%増の 117,910 件ですが、その中で福祉施設は 8,281 件、前年度比 27.8%増となっているとのこと。その後福祉新聞の記事にも取り上げられて事の重大さに気がつかされました。確かに法人としては、腰痛をはじめとして通勤途上、或いは利用者送迎・訪問時の交通事故、感情労働から来るストレスによる心身症、その他労災が発生します。法人としては以下の宣言をして職員の皆さんの健康と安全を目指して努力をします。どうぞ皆さんも自覚的にわが身を護る意識を強く持ってください。

至誠学舎立川 働く人々の安全と安心の宣言

社会福祉法人 至誠学舎立川は 組織を挙げて 利用者と働く 人々の安心・安全な職場作りに努力をします

特に以下の点を重点として健康で明るい職場をつくります

1. 腰痛予防対策を進めます
2. 通勤途上、地域での活動における交通事故ゼロを目指します
3. 感情労働の特性を理解し、精神的な安定の支援をします
4. 労働安全衛生委員会、職場の安全推進者の活動に充実を図ります

2017 年 7 月

至誠学舎立川 理事長 橋本正明

事業本部長メッセージ

私の子ども時代とはだいぶ季節感が変わってしまいました。真夏のような梅雨が明け、どのような夏の景色になるのか少々不安です。猛暑や豪雨・台風の予報もあります。皆様まずは健康と安全第一を心がけてください。そして、楽しい思い出が人生にプラスされる夏でありますようお願いいたします。

今年も全社協国際部からの依頼で、アジア社会福祉従事者研修第 34 期生のエナ マリー モンター（エナ）さんが、7 月 19 日から 9 月 1 日まで 45 日間当法人で研修をしています。児童養護施設で約 4 週間、障害と高齢で 1 週間ずつです。エナさんは、フィリピンのバハイ・トゥルヤン財団で主に虐待や人身売買、児童労働搾取などの被害にあった子どもを支援するソーシャルワーカーとして働いています。3 月末に来日し約 3 か月、日本語教育を受けて私たちの現場に来ました。初めて日本語を学ばれたということですが研修は日本語でコミュニケーションをし、日誌も日本語で書きます。「私の目標」の 7 項目に「しせつのようにしゃさんやしょくいんとたくさんはなしたいです。」とあります。私たちとの交流を通して沢山のことを学んでいただきたいと思います。また、私たちもフィリピンの福祉や文化について知るとともに新たな気づきを得ることがあるでしょう。いま世界は様々な分野でグローバル化が進み、課題としての持続可能な社会システムづくりが模索されています。私たちの一見小さな取り組みが、新しい価値の創造につながり、イノベーションを起こしていくことにも貢献できるのではないのでしょうか。この小さな交流が、未来につながる交流になると思います。皆様どうぞよろしく彼女の学びにご支援お願いします。

児童事業本部長 高橋 久雄

事業本部長情報

♣児童事業本部♣

立川市営球場では毎日高校野球西東京大会の熱戦が行われております。灼熱の太陽のもと、各高校の学生、保護者が一弾となり大応援団による声援が響き渡ります。野球好きな方には落ち着かない日々だと思えました。私もその一人です。さて、夏休みに入り、子ども達はスポーツ大会や海水浴、キャンプなど楽しい行事が始まりました。子ども達の安全と健康を優先し取り組んでまいります。

全国では、この梅雨の時期に大雨による自然災害が発生いたしました。災害による被災者の皆様に心からのご冥福とお見舞いを申し上げます。日常から災害に対して心がけなければ、いけないことを改めて感じております。ボーイスカウトの標語「備えよ常に」が大切です。（櫻井 壽）

♣保育事業本部♣

暑中お見舞い申し上げます。

当法人にモンテッソーリ教育を導入して40年目となります。昭和51年、東京国際モンテッソーリ教師トレーニングセンター2期生として入学された故保坂久代氏（元小百合保育園園長）、和田上典子氏（元諏訪の森保育園園長）が学習の傍ら、モンテッソーリ著書の輪読会を開いて下さることが当法人のモンテッソーリ教育のスタートです。翌昭和52年（1977年）職員・保護者の了解を得て2歳児クラスから個別活動を中心としたモンテッソーリ教育を導入しました。その成果は子どもたちの成長の姿に現れ、保育者・保護者の理解を深めます。順次、教具を充実し縦割り年齢クラス編成とします。職員のトレーニングセンターへの派遣を奨励し続けさらに充実しました。以後、園内研修・研究会、保護者への育児講座等でその定着に努力しています。私たちの「子どもの心を育てる良い保育を目指して」平成29年度、国際モンテッソーリ教師トレーニングセンター0～3歳児コースに8名、3～5歳児5名が受講しています。（長谷川育代）

♣高齢事業本部至誠ホーム♣

私もかつては「イクメン」でした。（?）今は、海の日で連休となったりしますが、夏休みに突入するこの頃はプールや海水浴、遊園地などへ家族で出かけていました。

あの頃は どんなに忙しくても 子供達のために行かなければならないという世間・家庭内ムードがあり水着が新調されて目の前に出てくると普通の父親として当たり前元気よく動いていました。（出来る限り）、8月の夏休みは毎年、故郷の金沢に墓参り・お盆で帰りました。飛行機なら禁煙ですからいいとして列車だと禁煙の4つの箱席を随分前から予約するのです。そして田舎に帰る長男家族として、親戚への土産の品を沢山用意して子供達の服も新調したりするんです。今から思うと見栄っ張りだったと恥ずかしくなります。

久し振りの父親として娘達に対峙して これまた格好ばかりつけておりました。いまの方々とは比べ物にならない行動でしたが、世の中では普通レベルの父親像になるべく頑張ったつもりでした。下の娘と二人だけで出かけたのはたった2回だけでしたが とても記憶に残っています。一度はディズニーランドでした。仕事の関係もあつたので回数は多いですが、私のTDL経験は40回もあります。それなりのイクメンを演じましたが、その頃もいまま家族からの評価はいただいております。（残念）、今のイクメンは違うのでしょうか。皆さん夏を楽しみましょう。！！（金井 裕一）

本部事務局だより

「三日・三月・三年」という言葉を知っていますか？最近では、入社して辞めたいと考える時期という意味で使われていますが、元々は芸事や修行の言葉で「三日我慢すれば三ヶ月は耐えられる。三ヶ月耐えられれば三年は頑張れる。」という意味だそうです。

それは、ともかく、自分自身を振り返っても、この「三日・三月・三年」という時間は、目に見える技術的な向上だけでなく、その間の様々な経験が、目に見えないけれど、他にも通用するベースを作り上げているステップだったと思います。こんなつまらない事をやるのか？と思いながら三年経つと色々な事が見えてきます。どんな小さな仕事でも、何故こうしなければならぬのかを考え、どうすればより良くなるか工夫し、実践すれば、仕事の深さ、面白さが一段と増して来ることでしょう。（野島 忠幸）

<編集後>連日猛暑が続いていますが、高校野球や世界水泳、世界パラ陸上とテレビで連日、日本の若人たちの活躍を見ると、激しい運動は出来ませんが、暑さくらい？に負けてられないという気持ちになります。